第６号様式（第12条関係）

実　績　報　告　書

1　事業者名	Challenge For the Future
2　事業名	Cedar Youth International Project in Germany
3　実施期間	２０１６年　５月２４日～２０１７年３月３１日 ① 平成２８年６月２５日　事業説明会 ② 平成２８年６月３０日～７月６日　実地踏査（５泊７日） ③ 平成２８年８月１３日、２７日　二次選考（個人面接） ④ 平成２８年９月１０日～平成２９年３月１１日　事前研修 ⑤ 平成２９年３月１８日～３月２８日　研修旅行（９泊１１日） ⑥ 平成２９年３月３１日　報告会 ⑦ 平成２８年７月１７日～平成２９年３月３１日 スタッフミーティング等
4　実施場所等	① 事業説明会 西荻地域区民センター ② 実地踏査 １泊目　ポッセンホーフェンユースホステル ２泊目　アウグスブルグ市内ホテル（ARTHOTEL ANA STYLE） ３泊目　ニュルンベルグ市内ホテル（Best Western） ４泊目　ミュンヘン市内ホテル（Hotel Astor） ５泊目　同上 ③ 二次選考（個人面接） あんさんぶる荻窪 ④ 事前研修 第一回　あんさんぶる荻窪 第二回　あんさんぶる荻窪 第三回　あんさんぶる荻窪 第四回　あんさんぶる荻窪 第五回　あんさんぶる荻窪 第六回　セシオン杉並 第七回　あんさんぶる荻窪 第八回　西荻地域区民センター 第九回　あんさんぶる荻窪 ⑤ 研修旅行 １～５泊目　ポッセンホーフェンユースホステル ６泊目　ニュルンベルグ市内ホテル（Best Western） ７～９泊目　ミュンヘン市内ホテル（Hotel Motel One） ⑥ 報告会 セシオン杉並 ⑦ その他（スタッフミーティング等）　団体代表自宅

5　対象年齢・参加人数	杉並区在住在学　高校生１年～３年　８名 （うち杉並区在住７名）
6　参加費	有料（　５万　円）
7　内容	※実施した取組みの内容を具体的に箇条書きで記入する。 ①　事業説明会の内容 Challenge For the Future（以下 CFF とする）の主催する企画の内容について説明を行う。説明会の周知は広報すぎなみへの掲載、杉並区ホームページでの紹介、口コミで行った。参加者は、約４０名。熱心な保護者と高校生が話に耳を傾け、たくさんの質疑応答が行われた。 ②　実地踏査 １日目　羽田発ミュンヘン直行便（ルフトハンザ航空） 現地スタッフが空港に迎えにきてくれ、空港からポッセンホーフェンユースホステルがある、シュターンベルグへ車で移動。夕食は、ポッセンホーフェン市内の日本食レストランでとる。 ２日目　朝食後、ユースホステルの担当者と１時間程度の打ち合わせを行う。その後ユースホステル周辺を散策。チェックアウト後、ダッハウ強制収容所を見学。その後ダッハウから近い古い都市、アウグスブルグへ行き観光をし、宿泊。 ３日目　アウグスブルグを出発してニュルンベルグへと向かう。ニュルンベルグ城のすぐ前にあるアルブレヒト・デューラー美術館を見学。美術館の近くにあるレストランを予約。その後ニュルンベルグ裁判所へ行き、ニュルンベルグ裁判が行われた法廷を見学。（博物館として展示） ４日目　ニュルンベルグを出発し、ミュンヘンに到着。マリエン広場へ行き、有名な市庁舎の外観を見、その後レジデンツ宮を見学。夜は、現地協力者と夕食をとる ５日目　ミュンヘン市内のイギリス公園を散策。現地協力者とミュンヘン大学で待ち合わせ、白バラ抵抗運動で有名な場所に連れていってもらう。ホーフブロイハウスの場所や周辺のお土産物などを売っている通りを確認。 ６日目　ミュンヘンで宿泊する予定の Hotel Motel One へ行き、予約担当者と打ち合わせ。 ③　二次選考（個人面接） 書類審査に応募した４０名の中から、２０名を選抜し、その２０名を１０名ずつにわけて、２日間にわたり面接を行う。面接官は３名（外部１名、内部２名）選考の方法は、応募理由に記載されてあることについての質疑応答、高校でやっていること、大学に行ってからやりたいことについての質疑応答、一分間英語スピーチ、及びスピーチに関する英語による質疑応答。（各面接官より数個の質問）

④　事前研修

第一回　２０１６年９月１０日

選考された８名の高校生と３名の大学生スタッフ、さらにドイツ側のドイツ人スタッフ及び代表、副代表が初めて顔をあわせた。最初に自己分析アンケート表に記入をしてもらい、自己紹介、並びに何故この事業に参加したのか、その理由について英語でスピーチをしてもらう。その後大学生スタッフが作成した、ドイツに関する情報（地理、産業、州都や首都など）のつまったマップをみながら、ドイツ人スタッフがドイツについて説明。ドイツについてのブレインストーミングを４班に分けて行う。参加した高校生が、いかにドイツについて知らないか、ということがよくわかった。

第二回　２０１６年１０月２２日

成蹊高校の社会科の日高先生をお迎えし、ドイツに関する様々なテーマについて、高校生がプレゼンテーションを行う。テーマは、ナチス台頭の背景、ダッハウ強制収容所、ニュルンベルグ裁判、ベルリンオリンピック、ドイツの移民事情、ドイツ人音楽家ベートーベンとワーグナー、白バラ抵抗運動、ドイツの分断と再統一だった。発表のあと、日高先生が全員の発表への講評とさらなる気づきのための、歴史をどう理解していくか、ということについて講義を行った。プレゼンテーションの準備期間中は、大学生スタッフが高校生のサポートをした。ドイツの歴史や文化、政治について知識を深めることができた。その後は、前回の研修で何について話をしたか、といったフリーなテーマについて、代表が英語での質疑応答を行い、予期せぬ質問について英語で答える練習をした。また、次回の研修では、プレゼンテーションにパワーポイントを使用することとし、大学生スタッフがパワーポイント資料の作り方についてサポートすることとなった。

第三回　２０１６年１１月１９日

観光庁次長の蝦名氏を講師にお迎えした。高校生は、事前に課題を出されているテーマについてのプレゼンテーションを行った。今回のテーマは、欧米人がよく行く日本の観光地とその理由、人気のある体験ツアー、東京パラリンピックで使用する施設について、サブカルチャーの日本の観光産業への影響、災害時の外国人への対応だった。蝦名氏に高校生の発表を聴いてもらい、コメントをもらい、その後蝦名氏が、観光庁で使用している最新のデータをもとに日本の観光産業の現状や問題などについて講義を行った。大変わかりやすく、貴重な講義だった。今回、初めてパワーポイントを使用してプレゼンテーションを行ったが、大学生スタッフのサポートにより、高校生は見事な発表を行った。

	第四回　２０１６年１２月１７日 この研修では、パワーポイントを使って全て英語で、個人に課されたテーマについて発表する、ということを行った。テーマは、日独それぞれについて、両国の経済、産業事情について、教育制度について、食物事情について、宗教についてを高校生が、日本の伝統文化、ドイツのスポーツ、そしてドイツの都市構造についてを大学生スタッフが担当した。発表の後には、英語でそれぞれの発表についての質疑応答を行った。自分の考えをうまく英語にできないで苦労していたものの、きちんと応対ができていた。プレゼンテーションの後は、研修旅行で行ってみたい場所について話合いをした。具体的な旅行内容についての話し合いだったこと、知り合ってから３か月程経っていることから、和やかな雰囲気で話し合いが行われた。 第五回　２０１６年１２月１８日 第四回に引き続き、研修旅行で行ってみたい場所について班ごとに話し合いをした。その後、ディスカッションテーマについて話し合った。事前研修の中で、ドイツのことを深く知り、日独の違いなども感じてきた高校生、大学生スタッフは、現地でドイツ人と行うディスカッションについて、積極的に意見を出していた。最終的に学生にとって一番身近なテーマ、「学校教育」を大きなテーマとすることに決定した。 第六回　２０１７年1月７日 高校生が自ら企画運営をしていくオリジナルプランについて「チャレンジ・プロジェクト」という名称をつけた。このプロジェクトについて、どういう内容にするのか、ということについて、２人ずつチームを結成し、それについてのプレゼンテーションを冬休み中に準備し、この日発表した。どのチームもオリジナルのアイデアを披露した。最終的に、「ディスカバー日本」というタイトルのプロジェクトをやることが決定した。他のチームのアイデアについても、レクリエーションで採用することができた。高校生は、自分たちの意見が実施企画となり、益々やる気が出てきたようだった。意見交換も活発に行われた。 また、この日保護者会を開いた。保護者にこれまでの活動の概要を説明し、「チャレンジ・プロジェクト」についてのプレゼンテーション大会も傍聴してもらった。 第七回　２０１７年2月４日 現地活動予定表や、部屋割り、班割りについての資料を配布。ディスカッションの際に、ドイツ人に対して日本の学校教育事情を説明するための英文原稿を読み上げる練習を行った。さらに、ウェルカムパーティーでやる「出し物」、チャレンジプロジェクトの詳細、買い出し商品について話し合いを行った。

第八回　２０１７年2月２５日

「出し物」のカップス・パフォーマンスの練習。現地で行うアイスブレイクについての話し合い。お土産についての話し合いを行った。さらに、現地での報告書作成について、割り振りなどを発表した。ユニフォームのＴシャツとパーカーを配布。皆、さっそく着て写真を撮り、仲間感が高まった。

第九回　２０１７年3月１１日

保護者会。持ち物等、最終チェック。

出し物や、チャレンジ・プロジェクトで行う街頭インタビューの練習などを行った。

⑤　研修旅行

１日目　羽田集合。ルフトハンザ航空でミュンヘンへ出発

ミュンヘン到着後、バスでポッセンホーフェンユースホステルへ向かう。到着すると、副代表とドイツ人参加者がウェルカムパーティーの準備をして歓迎してくれた。自己紹介をしたり、お互いの「出し物」を披露しあったり、和やかなムードの中、初日が始まった。ドイツ人参加者の中には、ユースホステルに宿泊する人もおり、日本人参加者とすぐに打ち解けていた。

２日目　午前中、ドイツ側が考えたレクリエーション「シュニッツェルヤークト」を行う。指示の書いてある紙を渡され、班ごとに指示に書かれていることを実際にやってみたり、調査したりした。お昼はユースホステルでとり、午後は近郊のダンススタジオを貸し切り、様々なレクリエーションを日本人参加者主導で行った。名前を繰り返していうゲームのおかげで、全員の名前を素早く覚えることができ、それがまた、友達を作るのにとても役立った

３日目　朝早くにバスで出発。まずはダッハウ強制収容所に向かった。ダッハウでは、ガイドが英語で詳しく収容所のことを説明してくれた。ドイツでは、歴史教育があり、必ず強制収容所で学習することになっているため、ドイツ人参加者にとっては新しい発見はなかったと思うが、日本人参加者は、悲惨な現実を目の前にして、真剣に説明を聞いていた。中にはかなりショックを受けた人もいた。ダッハウの後、バスの中でランチパックを食べ、日本でも大変有名な、ノイシュバンシュタイン城（白鳥城）を見学した。朝は曇り空だったのが、ノイシュバンシュタイン城に近づくにつれ、どんどん雲が切れていき、最高のお天気に恵まれた。お城は評判通り、とても美しく、参加者もドイツ人もとても感動した。ドイツ人のカメラマンは、意外なことにこのお城を知らず、日本人と同じテンションで感動していた。夜はシュターンベルグに戻り、全員で街中のレストランで夕食をとった。帰ろうと思ったら、電車が故障原因で動かなくなり、最終バスに乗り遅れないように大変なことになってしまった。

		中には最終バスに乗れなかった人もいたが、電車が１駅だけをピストン輸送してくれて、何とかユースホステルに辿りついた
	４日目	前日がハードだったので、朝はゆっくり起きて朝食をとったあと、ディスカッションを行った。午前中は主に、双方準備をしてきた、プレゼンテーションによる、情報交換を行った。午後は３班に分かれ、キャリア教育、歴史教育、英語教育について話し合いを行い、日独で違いを発見したり、共通点を知ったりした。最後に、各人のテーマについて解決策や、提案事項、などを発表した。夕食後、キャンプファイヤーを行った。 火を囲んでの会話は格別で、参加者たちの距離がぐっと縮まったようだった。
	５日目	公共交通機関、市電を使ってミュンヘンへ行き、まずは BMW 博物館へ行った。かっこいい BMW がたくさん陳列してあり、車のモーターなども見学した。その後、昼食を兼ねて、チャレンジ・プロジェクトの一つ、ミュンヘンにある日本食レストランへ行き、日本のレストランと味を比べた。ドイツ人の日本食への感想も聞いた。その後は、マリエン広場を中心に５班に分かれて、CFF のパーカーを着て街頭インタビューと日本のスナック試食を行った。どのチームも身振り手振りを使いながら、日本の観光についてと、日本のスナックについて、現地のドイツ人や観光客として訪れている世界各国の人にインタビューを行った。最初は大変だったが、段々慣れてきて、インタビューや試食をしてもらうことができた。ドイツ人が各班に入って手伝ってくれたおかげで、合計 70 名からアンケートを集めることができた。一つの班では、警察官から不審に思われ、職質を受けてしまい、恐ろしかったが、代表がこのプログラムについて丁寧に説明をし、最後にようやく分かってもらえ、引き続きアンケートも行えた。　夕食はミュンヘン市内でとり、電車でユースホステルに戻った。長い一日だった
	６日目	５日間のポッセンホーフェン滞在を終え、ニュルンベルグへ向かう。研修でも学習した、ニュルンベルグ裁判所の中に設置されている、国際戦犯が開かれた法廷を見学した。ガイドが詳しく説明してくれた。説明の内容は大変難しく、専門用語が大賀ったが、事前に学習していたことで、半分以上は理解できていたようだ。その後、ニュルンベルグ城へ行き、高い場所からニュルンベルグの街を見た。美しい中世の街並みに皆、感動した。昼食は簡単に済ませ、ニュルンベルグ出身のドイツ人の案内で、市内を観光した。６時にアルブレヒト・デューラーハウスレストランタ食をとった。有名なニュルンベルガーソーセージはとても美味しかった。
	７日目	午前中、ドキュメンテーション・センターへ向かう。ここは、ナチスの党本部があったところで、戦時中はすでに使用されていなかったため、あまりダメージを受けなかったため、残存し

ている部分がうまく利用されて博物館となっていた。オリジナルの建物を使用しているため、当時の雰囲気を思い起こすことができ、資料も豊富で大変勉強になった。ナチスが行ったプロパガンダについて、ガイドから詳しく説明をうけた。学生、生徒は、プロパガンダ、という言葉は聞いたことがあるか、実際にはどういうことなのか知らなかった。今回の研修でプロパガンダとはどういうものなのかがすごくよくわかったと言っていた。　博物館の後、バスでミュンヘンへ向かった。到着してからミュンヘン在住のドイツ人の案内で市内を散策。この日は寒かったため、カフェで過ごす時間もあった。５時に日本領事館に行き、日独総勢３０名を与謝野副領事が歓迎してくれた。副領事から、ミュンヘンでの日独の関係や、領事館の仕事などについて説明を受けた。日本側、ドイツ側双方から質問がたくさん出されたが、副領事はすべての質問に日本語とドイツ語で丁寧に答えてくださったことに、参加者は感激していた。夜は皆でレストランで食事をした。

８日目　朝９時にロビーで集合し、夜９時まで班別行動。各班のメンバーそれぞれが決めた目的地を訪れた。ドイツ人は訪れる場所を事前に調査してくれており、ガイドの役も買って出てたため、見学は充実したものとなった。小さいグループで機動力もあり、それぞれが楽しい思い出を作ることができた。

９日目　朝から午後２時半まで班別行動。違うメンバーと新たな思い出作りをした。２時半に再集合し、3時から３時間、ボーリングをやって、親睦を深めた。ボーリングの後は、世界的にも有名なレストラン、「ホーフブロイハウス」でお別れ会を開いた。９日間、密な毎日を過ごしてきた参加者たちは、いよいよこれで最後のプログラムかと思うと、大変名残惜しく、日本人からは、日本に帰りたくない、という言葉まで聞かれた。

１０日目午前中、参加者はこの事業の最初の事前研修時に記入したのと同じ「自己分析アンケート」の記入、感想文の作成に時間を費やした。１１時にロビー集合したときは、たくさんのドイツ人参加者が、最後のお見送りにきてくれた。中には空港まで一緒に来て、空港でお別れをしたドイツ人もいた。空港で最後のショッピングをして、夕方４時15分のルフトハンザ航空にて、日本へ向けて出発した

１１日目時間通り羽田空港に到着。チャレンジプロジェクトを報告書にまとめる作業をどうするか、という打ち合わせをする人は、空港で打ち合わせ、親御さんが迎えにきている人は、現地解散で自宅への帰路につく。

⑥　報告会　２０１７年3月３１日

午後１時に集合し、報告会で報告する各自の内容について最終チェック。午後７時から報告会開始。

	⑧　その他 スタッフミーティング等の実施 ＜２０１６年＞ ７月１７日　大学生スタッフ顔合わせ、ミーティング ９月１０日　事前研修の前に代表宅にてミーティング １１月１３日　副代表、ミュンヘン大学にてチラシ配布 １１月１７日　副代表　チラシ配布 １２月８日　代表、副代表ミュンヘン大学にて説明会開催 １２月２５日　副代表　ドイツ人参加者と打ち合わせ １２月２６日　大学生スタッフ、高校生プレゼン準備 ＜２０１７年＞ １月１４日　副代表　ポッセンホーフェン支払い、打ち合わせ １月１６日　代表、会計、会計打ち合わせ ２月９日　副代表　日本領事館にて副領事と打ち合わせ ２月２７日　代表、会計、決算打ち合わせ ２月２７日　副代表　シュターンベルグ実踏 ２月２８日　副代表　ホテルモーテルワン支払い、打ち合わせ ３月１日　代表、会計、決算打ち合わせ ３月３日　副代表　市役所訪問チャレンジ・プロジェクト申請 ３月６日　副代表　ドイツ人参加者と打ち合わせ
８　効果	＜事前研修について＞ 研修を始めるにあたって、最初にドイツについて質問したところ、高校生、大学生ともに、ドイツという国についての知識が大変乏しいということがわかった。応募の際、ドイツ研修旅行に参加したいと思った理由に、イギリスがEUを離脱したニュースから、「ヨーロッパってどういう所なんだろう？」と思ったという人が多く、ドイツもイギリスも、“独立した国”というより、“ヨーロッパの国”、ととらえていることに驚いた。まずは、ドイツという国を知ってもらうことが何より重要と感じた。毎回の研修で、ドイツ事情、日本の観光事情、日独の社会事情の様々な比較、といったテーマについて、一人ひとりが課題を出されて、発表をした。課題は決して簡単なものではなかったが、高校生はとてもよく調べてくれた。ただ、発表の際、与えられた制限時間を意識できていない人が多くみられた。発表の際、聴く側の人の中からランダムに一人を指名し、その発表について一つ質問をしてもらった。そのため、全員が他の人が発表をしている時、集中して聞いている必要に迫られた。発表者は発表者で、聞かれたことに答えなければならず、課題に対する深い理解度を要求された。英語による発表の際は、もともと英語のレベルの高い参加者が選抜されたため、発表内容には何の支障もなかったが、フリーの質問に対する答えとなると、なかなか自分の言いたいことを英語で表現できずに、苦労していた。英語で文章を書くことと、その場で自分の考えを英語で述べる、ということには、大きなギャップがあることを自覚したようだった。

	最初の３か月は、調べ学習に多くの時間を費やしたが、後半はグループでの話し合いの時間がほとんどだった。話し合いの内容は、研修旅行中のフリープランで何処に行きたいか、ディスカッションのためのプレゼンテーション、ウェルカムパーティーでの「出し物」、レクリエーション、チャレンジ・プロジェクトと名付けられたオリジナルアイディアといった事についてだった。知らない者同士の寄せ集めというムードは次第になくなり、仲間意識が出てきて、活発に話し合いを重ねていた。大学生スタッフも、最初はどうやって高校生と関わっていっていいかわからず、試行錯誤を繰り返していたが、後半になってようやく、大学生が高校生をうまくリードし、高校生が課題を実現していく、という流れが出てきた。ただ、そういう状態になるのに最低３か月はかかるとつくづく感じた。 この事業は初の試みであったが、最初の狙いどおり、高校生に直接働きかけたり指導するのを大学生スタッフにしたことは、大正解だった。 事業を始める前に立てた想定、「一般的に、高校生程度の年齢の子供たちは、大人が指示したり指導をすると、言われたことはやるが、それ以上の成果は期待できない」という問題点は、年齢の近い大学生スタッフに高校生をサポートしてもらい、高校生の自主性を自然な形で引き出してもらうというやり方をとったおかげで、事前研修の終盤に狙い通りの形が出来上がった。大学生スタッフの頑張りに感謝したい。この事前研修では、大学生スタッフにとっても、リーダーシップをとるということはどういうことなのか、について考え、現実的に経験するよい機会になったと思う。 高校生は、研修旅行に行く前に、自分で考えること、自らが行動すること、期限を守ること、与えられた課題については単に体裁を整えるのではなく、内容の濃いものを創り上げなければならないこと、英語で自分の考えを伝えるのは思っていたより難しいということを十分学んだと思う。 ＜研修旅行について＞ 事前研修中に活動内容を自ら作り上げてきたおかげで、参加者のプログラムへの理解度は深く、そのため活動は全体を通してスムーズに進んだ。高校生、大学生は共に、ディスカッションとチャレンジ・プロジェクトのことを一番心配していたようだ。ディスカッションのプレゼンテーションは、事前研修の段階で、代表からしっかりと指導されたおかげで、とてもうまくいったと思う。日本語で資料を作る段階では、発表内容をそれなりに文章化できるが、それを英語に翻訳する段階になって初めて、自分がいいたいことが分かっていないため、うまく表現できない人が多かった。代表から訂正箇所を指摘され、それを自分でまた書き直す、という作業を複数回繰り返すうちに、次第に高校生、大学生は自分のいいたいことが頭に入っていったと思う。ドイツにおける本番の場面では、その努力の甲斐あって、ドイツ人と対等に話をすることができた。

	もちろん、英語で議論していくには、会話能力が欠けている人も多く、言いたいことを言えないもどかしさを感じていた人もいたが、帰国子女のメンバーに通訳してもらい、助けてもらって、議論が成り立っていた。通訳することになってしまったメンバーは大変だったようだが、とてもいい経験になったと思うし、語学の面で頼らなければいけなかったメンバーは、改めて英語力の必要性を感じたと思う。ディスカッション、チャレンジプロジェクトのように高度な語学力を必要とする場面以外では、団員全員、ドイツ人との会話を楽しんでいた。初日と最終日を比べてみると、話をしている時の雰囲気が全く変わっており、英語だから話せない、話さないという雰囲気は、最後の方はほとんどなくなっていた。 事前研修で学習をして、知識をもって見に行った、ダッハウ強制収容所、ニュルンベルグ裁判所、ドキュメンタリーセンター、ノイシュバンシュタイン城については、英語でのガイドを理解するのに苦労したものの、知識が頭に入っていたため、何について説明を受けているかについては、全員がしっかり理解していたようだ。さらに、ドイツで暮らして1週間程度たってから訪れたドキュメンタリーセンターの「プロパガンダ」に関するツアーについては、皆、「わかりやすかった、プロパガンダとはどういうものなのか、すごくよくわかった」と口々に話をしており、内容が簡単だったのではなく、自然にヒヤリング力が上がったことが証明された。 今回の研修旅行の最大の目的は、「海外の友人を作ること」だった。 いろいろな経験をすること、そこに現地の人がいて、同じ時間と空間を共有すること。この環境があれば、友情が芽生えるはず、という想定のもと、様々なプログラムを行っていった。最終的には狙い通り、メンバーは例外なく全員と話をし、仲良くなった。日本人メンバーは、「日本に帰りたくない。ドイツにずっといたい。」と最後は本当に名残惜しく感じていたし、ドイツ人メンバーも、最後の最後までホテルや空港に見送りに来てくれ、最後の瞬間まで日本人のメンバーとの時間を大事にしていた。中には、今まで日本をアニメでしか知らなかった人が、日本語に興味を持ち、日本への旅行を具体的に計画すると言っているドイツ人もいた。研修旅行が始まった2日間くらいは、ドイツ側の大学生参加者が、高校生との年齢的な差を感じ、「高校生同士の交流の方がいいのではないか」、という声も聞かれた。しかしディスカッションを通して意見を述べ合ったことにより、その後は年齢差が人間関係に影響することはなくなった。 年齢、国籍を超え、双方の思いが同じように＋の方向へ向かい、友情を結ぶことができたことは、この事業が成功したことの証といえると思う。

※ 必要に応じて、枠を広げてください。

第７号様式（第12条関係）

収支決算書

Ⅰ　収入の部

項目	内容	金額
1　助成金等	次世代育成基金活用事業助成金	4,222,000
2　その他収入	参加者負担金　@¥50,000×11名	550,000
	ドイツ人ボランティア参加者負担金 €578.9	73,520
	団体負担金	69,890
収入合計		4,915,410

Ⅱ　支出の部

項目	内容	金額 参加者（子ども）	金額 その他	金額 項目合計
①　助成対象経費		2,435,707	2,114,059	4,549,766
(1) 旅費				3,308,669
	① 参加者航空費　@141,000×8名	1,128,000		
	② 引率者航空費　@141,000×4名		564,000	
	③ 参加者宿泊費	426,974		
	④ 日独スタッフ宿泊費		463,728	
	⑤ 現地バス借上げ費	416,197		
	⑥ 電車代	28,365	18,640	
	⑧ 食費	48,648	24,322	
	⑨ 現地踏査航空費・宿泊費		189,795	
(2) 謝礼				462,900
	① 面接審査員		32,000	
	② 研修会講師謝礼　2名分		50,000	
	③ ドイツ語講師謝礼4回分		8,000	
	④ 協力依頼手土産代		27,220	
	⑤ カメラマン謝礼（半日２日間、全日５日間）		75,600	
	⑥ バス運転手謝礼（食事代）		5,080	
	⑦ スタッフ謝礼		87,000	
	⑧ 大学生スタッフ謝礼		52,000	
	⑨ 現地スタッフ謝礼(10回分)		31,500	
	⑩ 現地踏査謝礼　@€250×１名		31,500	
	⑪ 研修旅行引率謝礼　@500×1名		63,000	
(3) 印刷費				265,764
	① インク・印刷用品・チラシ		24,644	
	② DVD制作費(報告会上映、参加者記録用)		50,000	
	③ コピー代		10,760	
	④ 報告書		180,360	
(4) 物品購入費				221,175
	① ユニフォーム代(内訳参照)	157,266		
	② 事務用品(文具，PC用品他)	59,954		
	③ キャンプ用品	3,955		
(5) 役務費				90,375
	① 海外旅行保険		23,260	
	② 振込手数料		2,052	
	③ 現地踏査経費・手数料		30,415	
	④ WIFI機材レンタル料		26,104	
	⑤ 郵送料等		8,544	
(6) 使用料及び賃借料				185,369
	① 事前研修会等施設使用料	48,100		
	② 現地入場料及びツアーガイド代	104,737	19,021	
	③ 現地施設使用料	13,511		
(7) その他				15,514
	① 会議費		13,594	
	② 交通費		1,920	
②　助成対象外経費（その他の経費）		262,076	103,568	365,644
	① 現地夕食代	100,800	50,400	
	② 現地外食代　@€100×2名　@€70×2名		42,840	
	③ 参加者思い出の写真・映像制作費	29,775		
	④ 送料		4,000	
	⑤ ウエルカムパーティ用品	16,032		
	⑥ 懇親会費用	57,912		
	⑦ さよならパーティー費(ホーフブロイハウス)	54,610		
	⑧ 接待費		6,328	
	⑨ ラミネート機材	2,947		
支出合計　（総事業経費①＋②）		2,697,783	2,217,627	4,915,410